

種 別	地域支援事業/包括的支援事業(社会保障充実分)/認知症総合支援事業								
事業名	宝達志水町認知症フォーラム ～認知症とともに、このまちで～			場 所	役場 大集会室 アステラス ホール		対象者	地域住民、介護保険関係者	
実施日時	令和 3年 2月13日(土) 14:00～15:30						天 候	晴れ	
参加者	役場	56人	アステラス	6人	ZOOM	17人	計	79人	

1 内容 *別紙プログラムのとおり 司 会 :一家課長

1)開会挨拶 町長

2)町の認知症の取り組みについて 中川センター長
※資料は別添のとおり(●町の高齢者の現状 ●町の認知症の取り組みについて)

3)基調講演「認知症になっても安心して暮らし続けるために」
講師:北村 立 石川県立高松病院長

●内容の要約

長生きするほど認知症は避けられない。自分もなるものと思って準備しておくこと。だからこそ、正しい知識を持っておくことが大切。認知症の診断で大事なことは、問診・認知機能検査・身体的検査。CTやMRIなどの形態画像よりもSPECTやPETなどの機能画像検査の情報が有効な場合もある。認知症と診断されたら、役割や楽しみを持つこと、人と話すこと、記録をつけること、新しいことに挑戦することが大切である。物忘れの進行があっても、地域とのつながりがあり、本人とその家族が笑顔で過ごしているかが治療の指標となる。本人も家族も認知症を受け入れ、うまく付き合っていくこと。介護を責任感や義務感だけではない、プロと上手く連携しながら対応していくべき。検査や点数よりも笑顔でいられることが大切。

※資料は別添のとおり

4)認知症地域支援推進員の活動と地域へのメッセージ

認知症地域支援推進員 東野 徳得氏、上本 雄一朗氏、千葉 有子氏、石尾 眞知子氏

毎月、推進員が集まり、地域がどうしたら認知症にやさしいまちになるかを考え、話し合っている。CA TVで寸劇を放映することが決まり、撮影に臨んだ。この寸劇を見て頂き、自分たちの地域を見直してもらうきっかけになることを願っている。自分だけのためでなく、少しでも地域のためになるよう役割を持って、つながりが広まってほしいと思っている。自分たちが70代、80代になっても安心して暮らせる町をみなさんとつくっていききたい。

5)小学生・地域・関係機関からの発表

「柳瀬サロン」代表者

今年度、7月中旬から感染症予防策をとってサロンを再開し、認知症予防と介護予防に励んだ。久しぶりに顔を合わせたときに安心感を感じた。「サロンを再開してくれて、ありがとう」と話してくれて、嬉しかった。10月は天気も良く、映画上映や樋川小学校草取りボランティアを実施。11月は健康づくり推進員による体操教室と生け花教室を実施。今後も認知症予防や介護予防に取り組み、住民同士支え合う関係づくりを楽しんでやっていきたい。

「宿サロン」代表者

3つの目標を掲げ、月1回活動している。1つ目は、認知症予防や介護予防のため、必ずラジオ体操をして軽い筋トレをしている。2つ目は、必ず一人ひとりが声を出して話す機会をつくっている。感想を話し合ったり、自分の名前の由来を話してもらったこともある。3つ目は、安否確認。欠席している人の状況を確認し合っている。

「相見小学校5年生」

Sくん

福祉体験を通して、高齢者の身体の不自由さや目の見えにくさが分かった。祖父や祖母が困っていたら助けてあげたい。

Sさん(母)

福祉体験をして、子ども達が高齢者のつらさを知ることができ、フォローする大切さを学んだ。貴重な体験ができ、良かった。

Kくん

福祉体験で、高齢者が大変な気持ちでいることが分かった。高齢者が困っていたら、手伝ってあげたい。落とし物をしたら、拾ってあげたい。

Kさん(母)

子ども達が学ぶ貴重な体験だった。高齢者に接するときはイライラしたり急かしたりせず、優しい気持ちで、笑顔で接することができれば良いと思った。

「樋川小学校5年生」

Sくん

認知症は誰もがなる病気だと知った。老化していくことと同じような症状になり、治すことはできないけど、地域の人困っていたら助けてあげたい。

担任教諭

子ども達は、最初、認知症という言葉に良いイメージを持っていなかった。サポーター養成講座を受け、誰もがなり得る病気であることや優しく接すれば症状が軽くなっていくことを学び、高齢者に優しくしているように考える子ども達が増えた。これは、高齢者だけでなく、子どもや大人、小さな赤ちゃんに接することと同じであり、子ども達には誰に対しても優しく接するという事を大事にしてほしい。

「リハ本舗よしのや」 施設長

古民家を改修した温かみのあるデイ。認知症の取り組みとして、アニマルセラピーを取り入れ、柴犬を飼っており、利用者から人気。施設周辺の散歩、畑での野菜作り・収穫、昼食づくりなど、楽しみを持ちながら、できることをしてもらっている。とくし丸にも来てもらい、利用者も楽しく買い物している。関係者と連携しながら認知症があっても安心して在宅生活ができるように支援していきたい。

「JAたんぼぼ」 相談員

福祉部門には、デイ、ヘルパー、ケアマネ、小規模多機能があり、在宅生活を手助けする役割を担っている。認知症の取り組みとして、集団に馴染めない方には、少人数で過ごしたり、短時間の利用にしたり本人、家族と相談して決めている。自宅での食事作りが難しい方には、一緒に作ったり、自宅へ届けたりしている。職員の心構えとして、自分の親や祖父母を任せられる事業所であるかとおつらい自分に問いかけながら支援に当たっている。

「GH虹の羽」 施設長

認知症を有する要介護の方が、地域支援を受けながら楽しく日常生活を送る施設。虹の羽では、イベントや外出支援に力を入れている。相見保育所とサツマイモ掘り、相見小学校運動会の応援、宝達高校家庭部とお菓子作り、演奏会やほっとカフェへの参加、民生委員との交流、夏祭り、文化祭など、年間250回以上のイベント参加や外出支援を行ってきた。積極的に活動することで、認知症進行の緩和や身体機能の維持につながれば良いと考え、スタッフ一丸となって支援している。コロナ禍ではあるが、閉塞的にならず、感染対策をとって、楽しく生活できるように心がけている。

「こうけん会(宝達苑、第二宝達苑)」 相談員

職員の認知症理解を深めるため内部研修を企画、また外部研修に参加している。日々、認知症は病気であることを忘れず、利用者に不快な思いをさせずに安心していただくことを第一に考え、利用者本人の不安を取り除き、信頼関係を築くことが大切だと指導している。感染対策を徹底し、利用者の生活が維持できるよう、話し合いを重ねている。フロア毎や利用者一人ひとりに生活の目標を設定し、認知症予防や転倒予防、身体機能の維持に努めている。施設内でも季節を感じてもらえるよう、支援に当たりたい。地域貢献に努めていきたい。

「ちどり園」 相談員

昨年、緊急事態宣言が発令され、近隣でコロナが増加する中、ちどり園も1週間ほどデイの営業を自粛。サービスを再開し、利用者と対面したとき、体力の低下と認知症の進行が、目で見て分かる変化があった。私たちの感覚では1週間は短い期間だったが、サービスが停止したことでこんなにも変化が生じてしまうのかと、デイサービスや介護施設の重要性を考えさせられた。現在、特養では窓越しでの面会。長い期間

家族と会えないことで認知症が進行している。私たちは家族の代わりにはなれないが、介護職として、利用者みなさんが、コロナにより今まで感じたことがなかった不都合が生じたり、それが一つの要因となって認知症状の進行につながらないようにと考え、日々努めていきたい。

6) 質疑応答

質問 父親が認知症。認知症の人に怒ってはいけないと学んだが、本人手が出てしまうことがあり、家族が対応に苦慮し、つい怒ってしまう。どうしたらよいか。

回答 怒るような行動をする心理を理解することが大切。周りが怒るなどピリピリすると、本人に伝わり、余計不穏につながる。ケアマネや介護サービス関係者と相談しながら、対応すべき。

7) 全体を通しての助言

小学生の体験や講座は良い。今後、各学年毎でできたら良いと思う。サロンの活動は継続すべき。女性は集まって話し合うことがしやすい。男性は集まろうとしない。釣りなど趣味を通じて、サポートしながら活動できれば良い。子どもや大人、ボランティアなどどれもがつながるまちづくりを目指してほしい。通院介助などの課題があり、付き添ってもらえる人やボランティアがほしい。

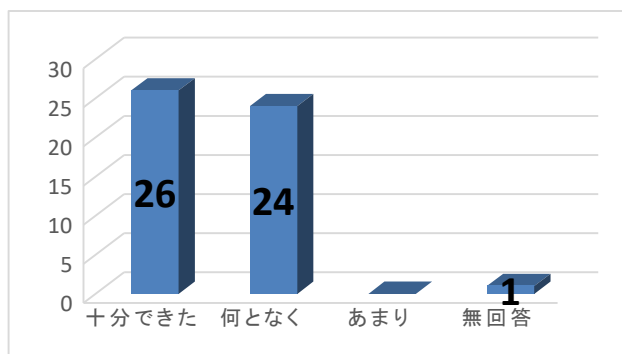
8) 閉会挨拶 一家課長

2 アンケート結果 別紙の通りとする

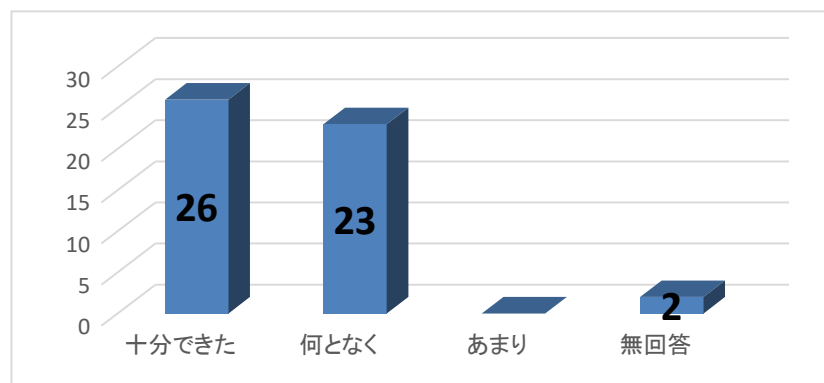
アンケートの回答者 51人(回収率 64.5%)

★認知症フォーラム 参加者アンケート結果★ 51人回答/79人(64.5%)

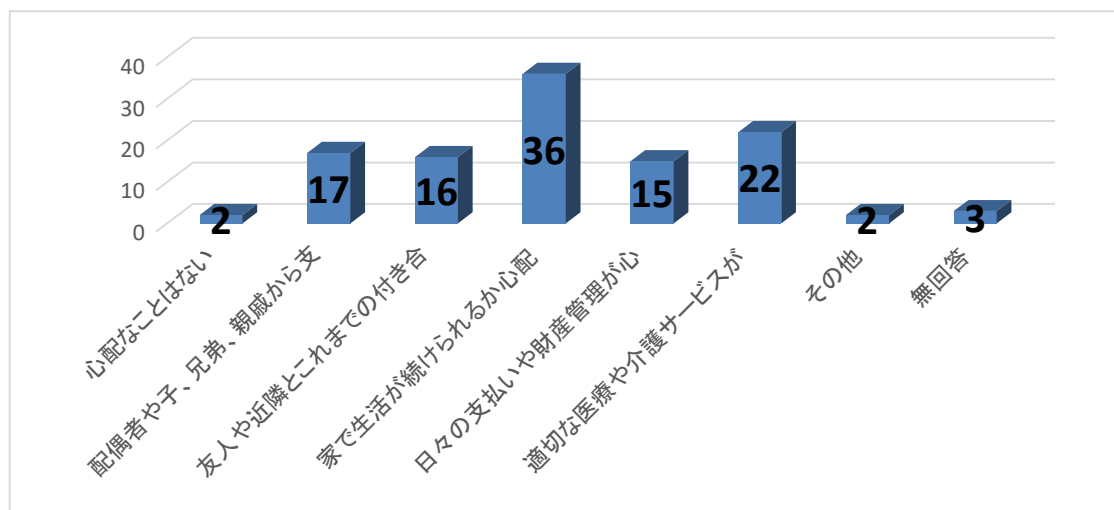
1 認知症の早期対応と生活支援について理解できましたか？



2 認知症の人を地域で支え合う「共生」について理解できましたか？



3 あなたが認知症になったら、心配なことや困ることはありますか？



※その他の意見

- ・生活全般です。
- ・認知症フォーラムのような勉強を家族にもしてほしいと思うが

4 あなたや家族が認知症になったとき、地域の中でどのような助け合いや支援があれば、自宅での生活が続けられると思いますか？

〈役場〉

- ・見守りがあると安心していれると思う。
- ・今はまだわからない。
- ・人に自分を認めてほしい。
- ・民生委員やケアマネの人たちとの交流が大切だと思う。
- ・日常生活の規約など(ゴミ出しや老後のこと)もしかしたら大丈夫かな?でもいつまで続けられるか・・・
- ・ゴミ出し、避難時の対応、金銭管理、衛生面

- ・「ひとりぼっちじゃないよ」「おいてけぼりではないよ」など声をかけができるボランティアの組織化(生活支援V、傾聴V、認知症V、民生委員、健康づくり推進員など)
- ・相談相手がいるか心配
- ・認知症になっても1日でも多く自宅で家族と過ごしたいです。
- ・施設にすみやかに入れるようにしたいです。順番待ちと聞くので。お金の面でもサポートがあればと思います。
- ・包括センターを利用することなどを勉強しておくことも大事。
- ・普通に声かけしてほしい。
- ・ボランティアポイントを導入し、小～高校生にも協力してもらい、助け合いを増やせばよいのでは。
- ・買い物や用事で1～2時間外出するときは、お隣さんに声かけし、お願いしていく。(最近の様子も伝えてある)
- ・生活のため、70歳を過ぎても現役実働部隊のご時世。我が子の人生に負担をかけたくない。ご近所にもetc 認知症で自宅での生活は難しいのではないのでしょうか？
- ・声かけが大切だと思う。
- ・近所の高齢者夫婦が多く、地域での助け合い等は難しいと思います。それでも娘夫婦が近くにいるので、助けてもらえると信じています。それ以上は今のところ考えていません。
- ・思いやりの言葉、見守り。
- ・定期的な訪問。その人の趣味に付き合う。

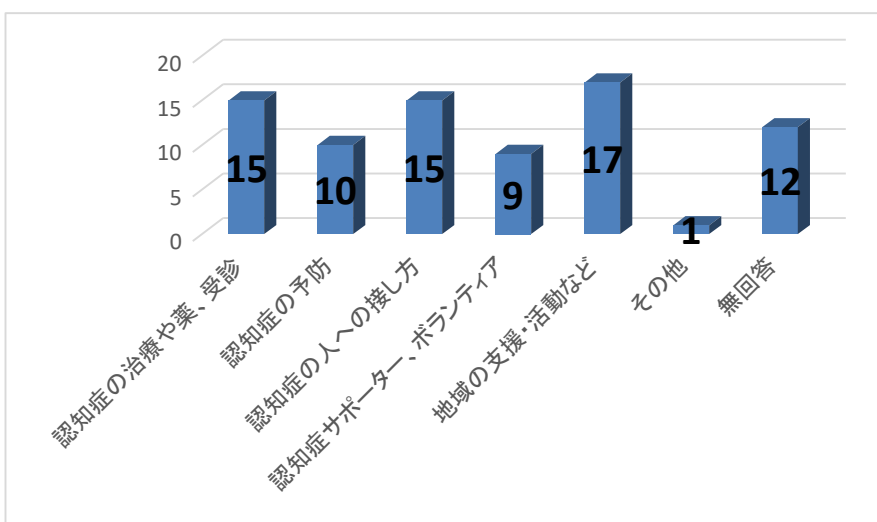
<アステラス>

- ・経験した友人、知人がいれば心強い。家族や友人、知人の共助が大きな介護の割合をしめると思う。
- ・近所付き合いを密にし、お互い共生・協力し合うこと。
- ・日常生活のサポート
- ・ヘルパーさんの生活支援。訪問診療の充実。

<ZOOM>

- ・認知症の方が地域の方と共に楽しく過ごせるほっとカフェのような場所が拡充すると良いと思う。
- ・どのような介護サービスをどの段階で受けることができるのかをもっと身近なことで、孤立しないよう情報をもっとほしい。
- ・付き添いのできる家族がいてくれれば安心だと思います。
- ・以前、テレビで見たことがあるが、すべての家が玄関外に旗を掲げることで安否確認の一手段としていた。ご近所の安否確認が、毎日できるような手段を考えていきたい。

5 認知症について、もっと聞いてみたいと思うことはありますか？



※その他の意見

- ・認知症の病気にもタイプがあると聞いた。詳細を聞いてみたい。

6 今後、認知症フォーラムで取り上げてほしいテーマ、地域で必要と思う取り組み、ご意見・ご感想等ありましたらご自由に記入ください。

〈役場〉

- ・地域でできることが何か具体的な事例があればいいと思います。
- ・とりあえず、人に自分を認めてほしい。それのみです。
- ・大変良かった。
- ・ありがとうございました。もう一度資料を読み返して勉強させていただきます。
- ・認知症の予防法
- ・認知症予防、ボランティアさんや人と人とのふれあい・つながりについて。ボランティアさんの数を増やすための事例。必要なのは地域のつながり＝ボランティアの必要性
- ・患者様の防災はどうするか？
- ・高松病院までの道のりが大変でした。本人を納得させるのが。
- ・最後の北村院長の話が大変なるほどな一と思うことが多々ありました。
- ・またこのようなフォーラムがあれば良いと思います。
- ・気づいていても家族に話しにくい。本人には声かけし、お互い笑顔で当たり前の話ができるが、やはり？のところがあり、事故のないうちにと！地域性があるのかも
- ・北村先生のお話しを楽しく聞かせていただき、認知症の学びができました。中高年になってるけど避けてたテーマと向き合えました。
- ・エンディングノートの作成があればと思います。
- ・認知症予防から後の話もお願いします。認知症予防は頑張りますが、なってしまったら楽しく生きられるようになりたいです。
- ・エンディングノート
- ・小学生の発表がとても良かった

〈アステラス〉

- ・介護施設はできるだけ機能訓練を取り入れて廃人にならないように努力してほしい。
- ・リモートで行ったのですが、聞き取りにくかった。
- ・地区の一部の方だけでなく、地区全体で考えていくことが必要と思います。町全体で認知症サポーター講座を推進していくべきでは。ゴミ収集などと同じく周知が必要ですね。
- ・認知症も老いの一つ。認知症の人をやさしく見守る社会づくりを具体的に示してほしい。そっちの方が大事。

〈ZOOM〉

- ・今回のフォーラムのように地域の人とともに考えられる内容で認知症の方とその家族の生活の支援を学んでいける場があると良いです。とても勉強になりました。
- ・皆さんの「もっと認知症理解のある住みよいまちにしたい」という思いが伝わってきました。とても良いフォーラムでした。参加できて良かったです。ありがとうございます。
- ・認知症本人が介護サービスを嫌がる場合、面倒を見ている家族だけに負担がかかってしまう場合の対処方法や経験談などを知りたい。WEB参加させていただき、ありがとうございます。
- ・食事や体を動かすことで健康を維持できる方法などを教えてほしい。
- ・北村立先生の話があったが、高齢になっても就労していると認知症予防に効果があるとのことでした。となると、具合がわるくなったときの通院できるのは土・日になる。高松病院の場合、外来は平日午前中のみ受け付けとなっている。土曜日の受診、時間外の受診はどうしたら良いのか？相談に乗ってくれる機関はありますか？

宝達志水町認知症フォーラム

～認知症とともに、このまちで～

日時：令和3年2月13日（土）14:00～15:30

場所：宝達志水町役場 大集会室



認知症になっても、明るく自分らしく
過ごせるまちにしたいだっぴ！！



☆認知症キャラバン・メイトによる寸劇『迷子になったはるばあちゃんを家族・地域のみんなで迎えた場面』

主 催： 宝達志水町
地域包括支援センター ☎28-8110

後 援： 羽咋郡市医師会、宝達志水町社会福祉協議会、はくい農業協同組合、瑠璃光薬局、特別養護老人ホームちどり園、特別養護老人ホーム宝達苑、特別養護老人ホーム第二宝達苑、グループホーム押水、グループホーム金谷の杜、グループホーム志雄、グループホーム虹の羽、グループホーム宝達の郷、デイサービスリハ本舗よしのや、機能訓練特化型デイサービスまほろば



<プログラム>

14:00 開会
開会挨拶
宝達志水町 町長 寶達 典久

14:05 町の認知症の取り組みについて
地域包括支援センター長 中川 郷子

14:15～ 基調講演

15:00 テーマ：「認知症になっても
安心して暮らし続けるために」
講師：石川県立高松病院 院長 北村 立氏



プロフィール

1987年、自治医科大学卒業。舩倉島など地域医療に従事。1992年から石川県立高松病院に勤務し、認知症をはじめ老人期精神障害の診療に携わる。2009年より石川県立認知症疾患センター所長、2013年より現職。認知症専門医として多くの方を診療。医学博士。

15:00 認知症地域支援推進員の活動と地域へのメッセージ
認知症地域支援推進員 東野 徳得氏

認知症地域支援推進員は、

認知症の人やその家族に対して相談を受け、対処の仕方など支援します。

認知症の人を医療機関や介護サービス事業所、町の社会資源（支援機関）とつなぎ支援します。町の認知症地域支援推進員は9人います。

15:05～ 小学生・地域・関係機関からの発表
15:25

地域の中には、認知症の方やその家族を見守り、支援していくために様々な取り組みが行われています。

認知症の講座を受けた相見小学校5年生と樋川小学校5年生、コロナ禍でも認知症予防・介護予防に取り組んでいる柳瀬サロンと宿サロン、認知症の方や家族を支援している各介護サービス事業所から取り組みを発表していただきます。

認知症の方を見守り、みんなで支え合える町を目指して、支援の輪を広げていきましょう。

15:25 講演会の質疑応答 講師からの助言

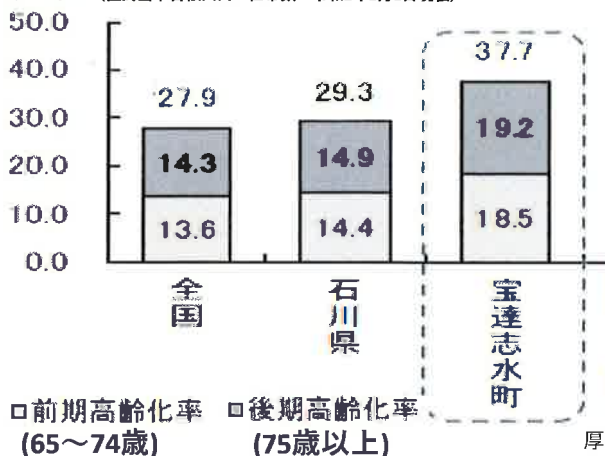
15:30 閉会

●町の高齢者の現状

◎令和2年11月末の人口は 12,813人 うち 65歳以上人口 4,914人(人口の38.4%)

◎高齢化率と平均寿命

(%) (住民基本台帳人口・世帯数：令和2年1月1日現在)



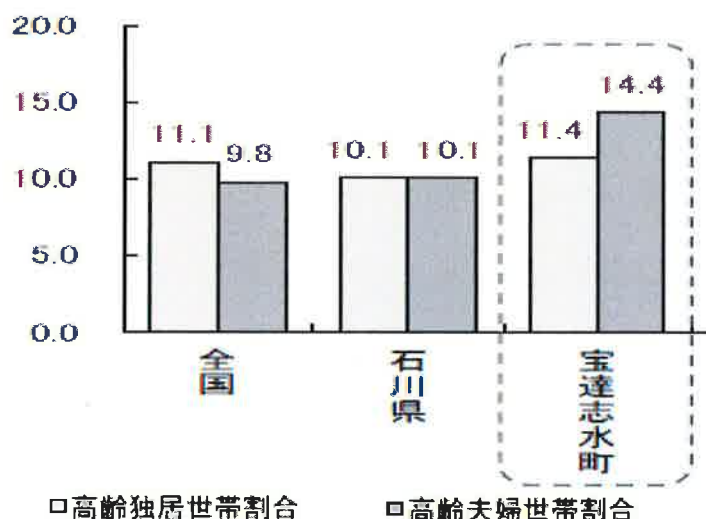
女性
87.32歳

男性
81.25歳

日本人の平均寿命は世界トップレベルです。長寿になればなるほど認知症になる人が増え、**85歳を超えると約半数の人が、95歳以上では約8割の人が認知症になる**というデータがあります。

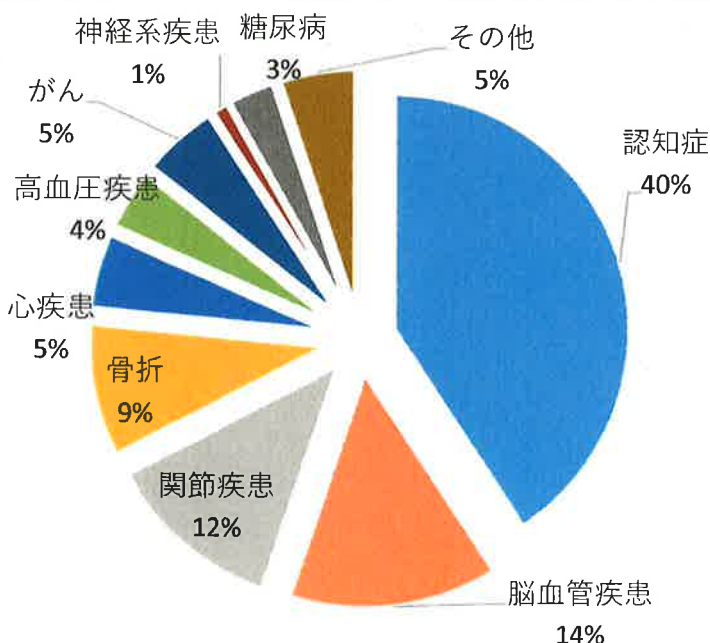
◎高齢独居世帯・高齢夫婦世帯の割合

(%) (国勢調査：平成27年10月1日現在)



高齢になると「一人暮らし」や「夫婦のみ」で暮らす人たちが増えてきます。元気なうちは大丈夫と思う人は多いですが、将来認知症になったとき、在宅生活に支障をきたすことが予想されます。誰もが住み慣れたまちで最後まで安心して暮らしていくには、医療・介護従事者だけでなく、地域全体で認知症の方やその家族を支えていく必要があります。地域の中でお互いに助け合える関係性をつくっていきましょう。

◎要介護認定の主な原因 (令和元年度)



◎課題と対策

高齢化の進行に伴い、認知症高齢者は今後ますます増加することが予想されるため、早期発見・早期対応のための仕組みや相談体制の整備が必要です。

認知症になったとしても本人の意思が尊重され、その進行状況にあわせて適切な医療・介護サービスや必要な生活支援を受けながら、可能な限り住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう、医療、介護及び生活支援の連携を強化し、認知症高齢者とその家族を地域ぐるみで見守り、支える体制を構築していくことが大切です。

●町の認知症の取り組みについて

人生100年時代を迎え、町では認知症になっても、人生の最後まで地域で自分らしく生活していけるよう認知症の人にやさしい町づくりの推進に取り組んでいます。

認知症にならないのではなく、認知症になったときのために備えることが大切です。まずは、認知症について知ることから始めましょう。

◎認知症初期集中支援チームが支援します。

認知症の方や疑いのある方、またその家族にかかわり、医療介護福祉の専門職が訪問し、認知症に関する情報提供や医療機関の受診、介護保険サービスなどの導入・調整、家族への支援を行います。

*対象：40歳以上で自宅で生活する以下の方
認知症(疑い)があり医療や介護のサービスを受けていない方
認知症の症状で対応に困っている方 など。

●まずは町地域包括支援センターに相談ください。



◎認知症フォーラムの開催

自分が、家族が認知症になっても最後まで安心して暮らせるよう、認知症の人にやさしい町づくりを考えていく取り組みです。

認知症にならないではなく、認知症になったときのために備えましょう。

◎認知症ケアパスの作成

認知症の方やその家族を支えるため、状態に合わせた地域の情報や社会資源、サービスなどをわかりやすくまとめたものです。

当町のケアパスは、町の認知症支援推進員のみなさんで作成しました。
”ホーピー♡ハッピー笑顔街道”と題し元気なうちからスタート。
予防から始まり、物忘れが出てきり、進行してきたときに
利用したいサービスや相談先などを掲載しています。



◎認知症カフェの開催（ほっとカフェ オレンジの輪）

「認知症カフェ」は、認知症の方やその家族を支えるための集いの場です。
どなたでも気軽に集まれる場で、認知症や介護について地域の相談や交流を行ないま
す。ぜひ、お気軽にお立ち寄りください。（お茶代・資料代：100円）

★子浦会館 第4金曜日 10:00~12:00

★アステラス 第2水曜日 14:30~16:30



◎認知症見守り支援事業・SOSネットワーク事業による見守り支援

徘徊などで行方不明になった際に、早期に発見できるよう発見者と家族がQRコードを用いた専用の「どこシル伝言板」を活用した「見守り支援事業」を導入しています。また「SOSネットワーク」による地域の見守り体制を構築しています。行方不明の検索だけでなく、地域住民の見守りと合わせて、より早期の発見につなげています。



◎認知症サポーター養成と活動の支援

小・中学校、地域、事業所で、認知症サポーター養成講座を開催し、認知症への理解、対応方法を学び、地域での活動に役立てています。

